

(別紙 1)

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社陽春		
事業所名	グループホーム陽春		
所在地	大阪府枚方市東田宮一丁目16番3号 (電話)072-844-7588		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-2号		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】 (20年9月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	5人
職員数	9人	常勤4人, 非常勤5人, 常勤換算3.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造・スレート葺 造り		
	2階建て	1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	500円
	夕食	600円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,400円	

### (4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	5名	男性	1名	女性	4名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4			
要介護5	0	要支援2			
年齢	平均 79歳	最低	73歳	最高	84歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	香里ヶ丘有恵会病院
---------	-----------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

定員5名という少人数の施設であり、民家を改造し昔懐かしい造りの家庭的な雰囲気である。職員も開設以来離職者もなく、顔なじみの職員との信頼関係が継続でき、安心したケアを受けることが出来、安定した生活が送られている。地域との関係においても、自治会に加入し積極的に働きかけを行い、住民との交流の機会を増やし地域に根ざしたホームとしての位置を築いている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前年度の評価結果を活かして、理念の見直しや、研修の充実にむけて取り組んでいる。計画的な研修はまだ出来ていないが、内部研修は、利用者の状況にあわせた研修・勉強会を実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	外部評価の意義については職員全員が理解し、今年度も自己評価票は、職員が早い段階から集まり話し合い、管理者が文書を作成し、再度全職員で眼を通して完成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	推進会議のメンバーには、地域包括・自治会長・副会長(民生委員)・家族が参加し2ヶ月に1回実施している。会議の内容は、近況報告や地域の行事、また地域で開催される高齢者対象の行事案内の情報提供など、その時々状況に合わせた議題となっている。会議は、利用者がくつろいでいるリビングで実施しており、自然な形で利用者の参加が見られる。また、利用者の生活の様子や雰囲気も外部の方に感じてもらえるようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	月2~3回家族の面会がある方は、記録を見てもらいながら生活の様子などを報告している。遠方で面会に来られない家族には、写真や手紙を送ったり、電話で連絡をしたりしている。家族来訪時に必ず家族には声かけを行い、意見や苦情・要望を聞くように心がけている。また言い易い雰囲気を作るように配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	自治会に加入し、自治会長は、推進会議のメンバーとして参加してもらっている。小学校の運動会の見学に行ったり、地域からも気軽に立ち寄り関係が出来ている。自治会の活動には、案内や、回覧板などで情報を得て参加している。回覧板も利用者と一緒に近所へ届けに行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価でのアドバイスを参考に理念を見直し、職員全員で話し合い、「家庭的な環境のもと」と「地域の人たち」という文言を追加し、事業所独自の理念を全職員で作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示している。又、申し送り時やミーティングなどで時間が空いた時に、理念について話し、浸透を図っている。日頃からケアの場面において、理念に基づいて実践していけるように話をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会長は、推進会議のメンバーとして参加してもらっている。小学校の運動会の見学に行ったり、地域からも気軽に立ち寄り関係が出来ている。自治会の活動は、案内や、回覧板などで情報を得て参加している。回覧板も利用者と一緒に近所へ届けに行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義については職員全員が理解し、前年度の評価結果を活かして、理念の見直しや、研修の充実にむけて取り組んでいる。計画的な研修はまだ出来ていないが、内部研修は、利用者の状況にあわせた研修・勉強会を実施している。今年度も自己評価票は、職員が早い段階から集まり話し合い、管理者が文書を作成し、再度全職員で眼を通して完成している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議のメンバーには、地域包括・自治会長・副会長（民生委員）・家族が参加し2ヶ月に1回実施している。会議の内容は、近況報告や地域の行事、また地域で開催される高齢者対象の行事案内の情報提供など、その時々状況に合わせた議題となっている。会議は、利用者がくつろいでいるリビングで実施しており、自然な形で利用者の参加が見られる。また、利用者の生活の様子や雰囲気も外部の方に感じてもらえるようにしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは、色々な手続きについて説明を受け、相談や意見を聞くなど、連携を図っている。市主催の会合には必ず出席している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月2～3回面会があるご家族には、記録を見てもらいながら生活の様子などを報告している。遠方で面会に来られないご家族には、写真や手紙を送ったり、電話で連絡をしたりしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時に必ず家族には声かけを行い、意見や苦情・要望を聞くように心がけている。また言い易い雰囲気を作るように配慮している。家族会はないが、家族同士顔なじみの関係が出来ており、ホームで顔をあわせるとお互い気軽に声をかけて話をしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来職員の離職もなく安定したサービスが提供できている。利用者・家族に対しても安心した生活が送れるよう顔なじみの職員の対応を心がけている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加は多くないが、研修案内が来れば職員へ声をかけ情報提供を行い、以前よりも研修参加は増えている。事業所としては、交通費を支給、休日調整をして対応している。研修参加後は、報告書・資料を提出してもらい、回覧すると共に伝達講習をしている。内部研修は、特に時間を決めず利用者のケアに支障を来たさない時間にホームの状況に応じて必要な研修を実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催で3ヶ月に1回グループホームの交流会に参加し、意見交換や情報提供などを行い連携を図っている。参加者は、管理者のみでなく、職員も参加し、会で知り合ったグループホーム間で、お互いのホームを訪問するなど活発な交流が来ている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み後、何回か本人・家族が来訪され、事業所からも、自宅を訪問し生活状況を確認し、顔なじみの関係を築くようにしている。また、希望者には体験入居や昼間の数時間を過ごしてもらい、雰囲気に馴染めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者1人一人が自分の役割を認識しており、職員は自発的にできるように支援している。利用者から献立や調理についてのアドバイスをもらうこともあり支えあう関係が出来ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、家族から、陽春独自の全体状況アセスメントで聞き取りを行い、意向の把握に努めている。入居後も家族との面談や日々の生活の中から本人の思いなどを汲み取れるように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族から聴取した情報でアセスメントを行い、家族・職員と意見交換しながら、入居後1ヶ月程度で初期計画を立案、家族にプランを説明し、確認後同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>初期計画の立案後モニタリングを実施し、2ヶ月に1回ケア会議にてプランの見直しを行っている。又、状態の変化に応じてはその都度話し合い、見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況により遠方の外出希望があれば柔軟に対応している。また、通院や送迎にも必要に応じて柔軟な対応を行っている他、入院した利用者に対しては、顔なじみの職員が頻繁に病院を訪ね医療機関との情報交換を行い早期退院に向けた取り組みを行っている。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>2週間に1度協力医の往診を受けるほか、家族・本人の希望があれば希望のかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族と相談しながら地域の認知症専門医への受診を検討中である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療的な処置が発生した場合には適切な医療処置が受けられるよう入院となることがあるが、利用開始時より終末期について家族に説明を適宜行い、医師・家族と十分な話し合いの下に終末期に向けた方針を関係者全員が共有し支援を行なえるよう取り組んでいる。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報や・プライバシーに関して資料を配布し常に周知徹底を図る取り組みをおこない、日々ケアを行っていく中で利用者に対しての言葉や態度には全職員で気を配るようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日のスケジュールはあるが、利用者一人ひとりの表情や動きなどからその日の利用者の体調や状況・気分に応じて柔軟な支援をするように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は、利用者の希望や栄養面に配慮して管理者が1ヶ月分立て、職員が買い物に行っている。調理や後片付けは利用者一人ひとりの能力や希望で参加してもらい職員・利用者共に食事を楽しんでいる雰囲気がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2時から6時まで入浴可能であるが、介助が多く必要な方に対しては、安全性を確保する為に職員数が充実している、月・水・金の入浴となっている。入浴拒否のある方に対しても声かけや誘導を工夫しスムーズな入浴ができるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の習慣や希望、有する能力を把握し日常生活の中で自然な形で利用者が出番や役割を果たせるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の利用者の状況や気分に合わせて近隣への散歩や買い物を週に3~4回出かけている。また、車でドライブに出かけ、外出先でお茶を飲んだり、年間年間行事計画を立て季節に合わせた外出をお弁当を持って出かけたり、職員と共に気分転換やストレス発散の機会を持っている。下肢筋力低下があり日常的な外出が困難な利用者に対しても駐車場まで出て外気浴を行えるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中は利用者が自由に入りができる環境にある。職員は、鍵をかけることの弊害について理解しており見守り・声かけを徹底して行うことで利用者の安全性を確保し地域に開かれた生活が送れるように支援している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で年1回昼間想定避難訓練を実施している。地区の消防訓練への参加をしており地域との協力体制の整備に努めている。災害時想定訓練は実施していないが、普段から災害時の避難場所は確認・説明を実施している。災害に備えた備品・備蓄について必要性は理解している。		予測できない災害に対して、様々な発生時間・地域に応じた具体的な災害想定を行い、具体的な避難・誘導ができるように訓練を継続することが望まれる。また、運営推進会議や地区の消防訓練を通して非常災害時対策に対する具体的な支援体制の整備に取り組むことを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表で食事・水分の摂取状況を把握し利用者個々の好みや苦手なものをとらえる他、水分・食事量の低下に対して早期に対応できるように配慮している。献立は一日1500～1600カロリーになるように献立を立てており、摂取量と合わせて大まかな摂取カロリーの把握も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、職員や利用者の落ち着いた話し声や時間帯で食事作りの匂いがあり家庭の生活感が感じられる空間作りを行っている。利用者の気分や身体状況に合わせて移動ができ、思いおもい過ごせるようにテーブルや椅子の配置にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使い慣れた好みのものを持ち込み過ごし易く、安心して過ごせる空間作りを行っている。掃除や馴染みのものの配置も利用者の心身の状況にあわせて支援している。</p>		

は、重点項目。